

東京の産業と教育

会の目的

本会は産業界、教育界および行政当局が一体となって相互に連絡協調し、本都における国公私立の中学校、高等学校、高等専門学校、短期大学および専修学校等の産業教育の改善・進歩をはかり、もって産業経済の自立発展に寄与することを目的とする。

次世代に夢をつなぐ

板橋区産業の再生

東京商工会議所板橋支部 会長

株式会社サイトウ製作所 社長

齋藤 裕



意外と知られていないが、板橋区は内陸型工業区である。明治9年、板橋火薬製造所が出来たことに始まり、昭和に入り、軍需工場をはじめとして、雨後の竹の子のように中小企業が誕生した。特に光学、精密機械加工に強みを持っている。しかし、"かつて6,000社を誇った企業数も、今では2,900社"余りになっている。戦後、アメリカのクリスマス向けの双眼鏡の90%は、板橋区で作っていたのである。

今まで、幾多の経済環境の荒波を乗り越え、今なお続けている企業は、何か特色をもった企業なのである。私が、東京商工会議所板橋支部の会長を拝命してから板橋区産業の再生を訴えて来ている。そして、何よりも板橋区の産業を知るためにファインワークス表彰制度を設け、区内優秀製品の掘り起こしと同時に、認定し一般に認知させることを始めている。その後、製品だけに限らず、これらの製品に携わっている優秀技能、技術者の表彰制度も、平成19年度より始めている。

ファインワーカー制度と称し、表彰者には其の証として特別のバッチを付与し、其れをつけることで本人に誇りを持ってもらえるようにしている。この事業は、企業からも、本人達からも大変反響が大きく、多方面より評価を頂いている。

最近、行政も板橋区の産業に力を入れてきている。

毎年、ビックサイトで行われる「機械要素技術展」には、板橋区としてブースを確保し、区内の企業のPRに努めている。去年は、エアロスペース・ショウにも行政として参加出展している。その他、板橋区は板橋産業見本市をはじめとし、物づくり夜間大学、板橋デザインフォーラム、板橋製品技術大賞、板橋経営品質大賞等々、区内産業の活性化に努力しているが、今一つ、区内のPRが乏しく、参加者が少ないのが残念である。

先にも述べたが、板橋区の産業減少に歯止めが利かない原因は、事業承継の問題がある。子どもが親の事業を継ぎたがらない、親の苦労のみを見て楽しさを知らない事も原因していると思う。

私は、何と言っても、幼少の時から物づくりの楽しさ、達成感・満足感を味わわせる事が一番の近道であると思っている。工業系の学校が少ない事も原因している。工業系の学校は、先生も、設備もお金が掛かることは理解できるが、これこそ産業界と学校が協力していけば、新しい道が開けるのではないかと思う。物づくりに大切なのは理論より体験である。失敗したことや痛い思いをしたことは忘れないのである。その意味でも、これからの若者達には、体験学習を増やすことで、物づくりの本当の楽しさを知ってもらい、夢中になれる技術者を増やし、同時に、技術者の社会的地位の向上を図っていきたい。

小集団活動による社会人基礎力の育成

東京都立産業技術高等専門学校

ものづくり工学科・医療福祉工学コース

准教授 博士(工学) 三 林 洋 介



1. はじめに

産業界では、近年、若者のコミュニケーション不足が指摘されるなど社会人基礎力の低下が問題となっています。社会人基礎力とは、経済産業省の定義では職場や地域社会の中で多様な人々とともに仕事を行っていく上で必要な基礎的能力で、前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力の3つの能力より構成されるものとされています。これらの能力は学校教育でも大切な能力で、養成方法を考える意義はありそうです。本報告では、私の担当科目に取り込んで実践している小集団活動による社会人基礎力養成の事例を紹介します。

2. 小集団活動とは

小集団活動は、同じ職場の仲間です少人数のグループをつくり、仕事上のさまざまな問題をテーマとして、設定された期間内に問題改善を行うチーム改善活動です。もともと製造業の品質管理活動から発祥し、QCサークル活動として様々な産業に普及、現在はクロスファンクショナル活動、プロジェクト活動など、形態や名称は変容しているものの多くの企業で展開されています。

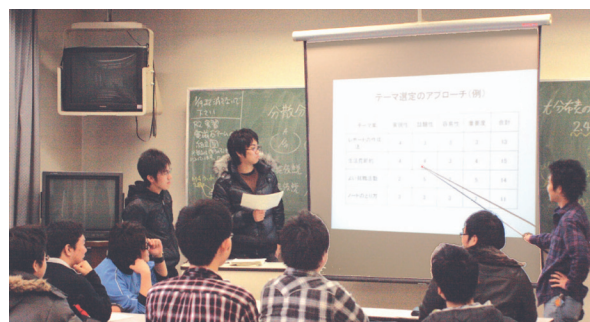
3. 授業における小集団活動の展開

小集団活動は、私の担当科目である情報リテラシーのプレゼンテーション課題に取り入れています。今日は多様な情報社会にあって、この科目では情報倫理を含めて情報処理技術の基本習得を主軸に展開していますが、情報コミュニケーション能力としてプレゼンテーション技術の育成にも力点をおいています。従来はプレゼンテーションソフトの使用方法を演習形式で、またプレゼンテーション技術を授業形式で学び、自由課題として個々の学生が調べた結果を情報ツールを用いて作成し、皆の前でプレゼンテーションを行っていました。

確かにこの進め方でも、学生は自分で課題を考え、調べ、集めた情報をまとめて、さらに情報ツールを活用してプレゼンテーションするという実践

学習の観点からも大きな成果が得られます。しかし、個々の学生が課題を調べて発表するだけでは社会人基礎力の構成要素である、前に踏み出す力と、考え抜く力を育成するにはやや不足なのです。社会における日常の仕事には目標があり、計画、実行、結果とフィードバック、成果があり、達成感があります。Plan → Do → Check → Action、すなわち常にPDCAサイクルがまわっていないといけないのです。これの実践教育ツールとして小集団活動の導入は極めて有効です。具体的には4名程度のチームを編成して自分達の身の回りの問題改善活動を実施して活動成果をプレゼンテーションします。すべてのチームはテーマ選定→現状分析→目標設定→要因分析→対策立案→対策実施→効果確認→菌止めといった活動ストーリーを遵守し、活動ツールと事例は十分授業で教示します。

この小集団活動期間は夏休みを有効活用し、休み明けに成果発表会を開催しプレゼンテーションを実施しています。なお、プレゼンシートの作成、発表ともにチーム全員で分担して行い、これをクラス全員で評価して優秀チームを表彰するなどして志気を高めています。これによって、社会人基礎力の3つ目の能力であるチームワークの形成と難しさも併せて学習できます。この取り組みは今年で3年目となりますが、更なる社会人基礎力の育成と実践教育に目を向けていきたいと思っています。



成果発表会

産学連携による「ものづくり人材」の育成 ー技能習得型インターンシップを実施してー

東京都立蔵前工業高等学校

副校長 加 藤 秀 次



1 はじめに

ものづくり企業の生産現場等では、団塊の世代の大量退職により、人材不足や技術・技能の継承への危機が叫ばれています。また一方では、学校での実習内容（基礎・基本）と企業での技術・技能面の開きが指摘されてきました。

このことを踏まえ、各学校では実習内容等の見直しを図るとともに、卒業後の早期離職（ミスマッチ）やニート・フリーター志向を防止するなど、将来のものづくり企業を支える人材の育成に努めてきました。しかし、学校だけの対応では解決に至りませんでした。

今回、東京都ではものづくり企業と都立工業高校が連携し、「技能習得型インターンシップ」(注)を実施しました。

以下に、本校での取組みについて報告します。
(注)技能習得型インターンシップとは、生徒（2年生対象）が夏休み期間中の10日間、ものづくり企業等において熟練技能者から実技指導を受けることで、より高度で実践的な技術・技能を身に付けることを目的とした事業。

2 本校での取組み

本校では、すでに希望生徒を対象に3～5日間の「インターンシップ」を実施していました。そのため、進路指導部が協力企業と日程調整したところ、夏休み期間中の10日間に受け入れることが難しい企業もあり、今年度は従来から行っている「インターンシップ」と「技能習得型インターンシップ」を並行して実施することにしました。

まず、希望生徒の募集に当たって、教育委員会より実施要項が示されました。希望生徒の書いた申込書と校長の推薦書を教育委員会に提出し、7月には生徒の面接があり、受入れ先が決まりました。

今年度の協力企業74社（定員120人）のうち45社に対して16校の都立工業高校から80人の希望があり、本校からは機械科の生徒3名と建築科の生徒1名が参加しました。その後、事前指導と

して進路指導部の担当者が受入れ企業に生徒を引率し、実施日や実習内容等について具体的な打合わせを行いました。また、生徒には実施期間中に日誌を書かせ、それを企業担当者に確認してもらうなど、学校と企業とが連絡しながら実施しました。

3 参加生徒の日誌から（一部抜粋）

○機械科2年 A

*派遣先：〇〇工業(株)

事業内容：航空・医療などの精密部品切削加工
従業員数：12名（生産部門は平均年齢25歳）



マンツーマンによる指導（ドリルの研削）

インターンシップを始めてからの1週間は、先輩から製品の洗浄や入庫などを教わりながら、作業を行っていましたが、製品の中には、傷の付きやすいものがあり、慎重に扱わなければならないのでとても疲れました。

その他、今回のインターンシップで教わったことは、ドリルを手作業で研磨する方法です。まだまだ未熟なので、もっと練習してしっかり身に付けたいと思います。この間、指導担当の方や専務さんから強く言われたことは、生産現場での礼儀（ルール・マナー）の大切さでした。他にも、自分でどうしてよいか分からなくなったとき、自分から上司の所に聞きに行くなど、“連絡・相談”の重要性を強く感じました。

将来は、設計関係の仕事に就きたいと考えているので、今回の製造企業でのインターンシップは、今後の進路選択にとっても役立ちました。

中学校技術・家庭科

第6回創造ものづくりフェア in TOKYO

東京都中学校技術・家庭科研究会事業部長

大田区立大森第六中学校長 **税 所 要 章**

第6回創造ものづくりフェア in TOKYO は11月15日(土)足立区千寿桜堤中学校と11月22日(土)女子栄養大学(食部門)の2会場にて開催した。全参加生徒は1,311名あり、会場は熱気に包まれた。入賞者は下記の通りである。

木工の技チャンピオン 東京地区予選

- | | | |
|-----|-------------|-------|
| 1位 | 大田区立大森第二中学校 | 菅野 真稀 |
| 2位 | 大田区立大森第二中学校 | 荻野 未帆 |
| 3位 | 足立区立千寿桜堤中学校 | 諏訪 隆洋 |
| 特別賞 | 大田区立大森第二中学校 | 君島 一至 |

全国創造アイディアロボットコンテスト

東京地区予選

< A-1 部門 >

- | | | |
|----|-------------|-------|
| 1位 | 豊島区立千登世橋中学校 | 特別な人達 |
| 2位 | 港区立赤坂中学校 | 人面犬Z |
| 3位 | 港区立赤坂中学校 | 人面魚S |

< A-2 部門 >

- | | | |
|----|-------------|---------|
| 1位 | 豊島区立千登世橋中学校 | 未完成な人達 |
| 2位 | 豊島区立千登世橋中学校 | すごい偉い人達 |
| 3位 | 豊島区立千登世橋中学校 | Dreamer |
| 4位 | 豊島区立千登世橋中学校 | 烈豪 |

< B 部門 >

- | | | |
|----|-------------|-------|
| 1位 | 板橋区立赤塚第三中学校 | 出落ち |
| 2位 | 板橋区立赤塚第三中学校 | 艶色あわび |
| 3位 | 板橋区立赤塚第三中学校 | |

安全第一～生命はひとつ～

あなたのためのお弁当コンクール 東京地区予選

- | | | |
|----|-----------|------------------|
| 1位 | 新宿区立四谷中学校 | 福島はづき・金 智恵・稲田満理絵 |
| 2位 | 品川区立八潮学園 | 古巢 留花・世良ちひろ・森 悠奈 |
| 3位 | 品川区立八潮学園 | 南 千優子・白石 涼菜・谷口 幸 |

生徒作品コンクール 東京地区予選

I 部門<技術分野>

○地球に優しい椅子

奥多摩町立氷川中学校 片倉 健夫

○本立て

足立区立第六中学校 信川 将

○ボールペン

足立区立第十一中学校 筑井 真由

I 部門<家庭分野>

○アレンジハーフパンツ

東京都立両国高等学校附属中学校 畠山 優衣

○幼児のためのフェルトの絵本

足立区立西新井中学校 大三川祥子

○寒い日のくつろぎ着コーディネート

小金井市立小金井第二中学校 松下 菊乃

II 部門<技術分野>

○コレクションボード

青梅市立第三中学校 高山翔太郎

II 部門<家庭分野>

○エコバッグ

足立区立花畑北中学校 木村 円香

○手作りのゆかた

東京学芸大学付属竹早中学校 茂木 優花

東京都ロボットコンテスト

<スプリンター部門>

1位 杉並区立松ノ木中学校 松ノ木11号

1位 中央区立銀座中学校 シャイニートレジャーズ

2位 北区立明桜中学校 ムラータ

<K-1 ライト部門>

1位 豊島区立千登世橋中学校 椎茸夫

2位 豊島区立千登世橋中学校 帰ってきた未完成

3位 荒川区立第七中学校 おちゃづけ

<K-1 ヘビー部門>

1位 港区立赤坂中学校 R-S103

2位 足立区立江北中学校 自然水

3位 港区立赤坂中学校 MSP-2

<スラローム部門>

1位 豊島区立千登世橋中学校 プロトタイプβ

2位 豊島区立千登世橋中学校 神足1号

3位 豊島区立千登世橋中学校 鈍足1号

がんばる東京の産業界 (会員企業の紹介)

株式会社大崎コンピュータエンジニアリング

資本金：9千万円 代表取締役社長：武田 一衛
東京都品川区大崎 1-11-2 ゲートシティ大崎イーストタワー 2F
TEL 03-3492-1776

<創業>

昭和 29 年 1 月

<従業員数>

300 名 (平成 20 年 10 月現在)

<営業拠点>

東京都 品川区、八王子市
千葉県 千葉市、市原市、茂原市、木更津市、
柏市、成田市、銚子市、市川市
大阪府 大阪市

<経営理念> 「信頼とサービス」

<主要営業品目>

情報・通信に関する総合インテグレータ
富士通・富士電機・NTTグループのディーラー
業務
●行政情報システムの設計・開発・運用・保守
●企業・団体向け情報システムの設計・開発・
運用・保守
●情報処理システムのコンサル・システム設計
/ 開発・運用・施工管理・保守 (メインフレーム・
各種サーバ・WS・PC・モバイル環境)
●情報通信システムの企画設計・構築・運用・

保守 (PBX・高速LAN/WAN・防災無線・
CTI等)

- 情報通信・電気設備・計測制御システム設計
施工・施工管理等・データセンター運営
- 各種情報通信機器・周辺機器の販売
- 専用線・OCN・ネットワークサービス等の
回線リセール
- 電機・計測制御機器・無停電電源装置の販売
- CE (保守) サービス業務、ソフトウェアの
開発及び計算業務
- アウトソーシングサービス・サービス商品「N
SS」の販売

<青年へのメッセージ>

ちょっとやそつとでは負けない営業部隊、初めての技術に飛びつき続けて20余年の技術陣。仕事にやりがいを求める若者に、挑戦機会と安定した基盤を精神科医兼、小説家の会長が提供します。情報通信の新しい世界にいっしょになって挑戦してみませんか。



太平観光株式会社

資本金：8千万円 代表取締役：北垣善男(会長)北垣繁(社長)
東京都練馬区東大泉 7-38-9 TEL 03-3924-1911

<創業>

昭和 38 年 2 月北垣善男唯ひとりで、太平観光(株)設立(1月)、旅行業開始。

<従業員数>

正社員 19 人 パート 2 人 役員 4 人

<営業拠点>

本社営業所及び埼玉営業所

<経営理念> 「できる」

- 基本方針 1. 環境整備を徹底する
2. お客様の立場に立って行動する
3. 他社の長所を積極的に取り入れる

<主要営業品目>

第1種旅行業で第三次産業の当社は人の移動に係る総合サービスと位置付け、特に学校団体(幼稚園・保育園より小中高校・大学迄)の遠足・移動教室・合宿・修学旅行を専門とし、又、高齢者・一般のお客様対象に日帰り、宿泊のバス旅行の企画・手配・添乗を行う。

<青年へのメッセージ>

当社は、サービス業である。当然、製品には形がない。しかし、次代を背負う青少年の教育・体育を支援する重要な業務であり、一方高齢者や一般のお客様の健康増進、ストレス解消・娯楽の提供により、社会貢献をする重要な仕事である。又特許で保護されないし、真似ることは自由である。だが、私たちは、猿真似はやらず、何か独自のものを加えるか変化をさせて独自の作品を世に提供しよう心掛けています。ぜひ貴方の力を当社で発揮して下さい。今年も内定者2人が入社します。内定した人は、なにがあっても受け入れる誠実な会社です。



専修学校に学んで ～在校生からのメッセージ～

国際理容美容専門学校

美容高等科 1年

井上千尋

私が、何故美容師になろうかと思ったのは、人と接する職業の中でも、外観も内面も綺麗にしてあげて、感謝されるということが素晴らしいと思ったからです。その夢をかなえる学校を調べていたところ、技術教育に加えて、人間教育に定評がある国際理容美容専門学校を見つけることができました。実際、体験入学に参加した時の、先輩方の挨拶、言葉遣い、態度などは、一歳違うだけでこうも違うのかと驚きました。そして、高等学校同等の資格取得も可能だということで、卒業後の進路も幅が広がるので、夢も大きく広がりました。入学してからの、学校生活はとても充実しています。もちろん、自分が好きなことをできているということが大きいのですが、それ以上に自分が職業人として必要な技能・知識をもつことで自分自身も、施術させていただく相手も「笑顔」になっていくことが分かることが、楽しいです。

まだまだ、学ばなければならないことはありま

すが、沢山の方々に「笑顔」を与えられるように成長していきたいと思います。

理容美容を目指す皆さんには、勉強はもちろん人と人との関係が良好になるような努力をして欲しいです。私は今までの経験の中で「挨拶」「笑顔」「返事」「人の話を聞く」ということは、とても大事なことだと思います。

日頃から身近な人への心遣いに気をつけて接することで人と人とのつながりが、より良好になるかと思っています。



東京エアトラベル・ホテル専門学校

エアライン科

フライトアテンダント専攻2年

西本莉美

私がエアトラベル・ホテル専門学校を選んだのは、日々の授業で客室乗務員になるために必要な知識が自然に身に付くと思ったからです。

高校2年生まで航空業界に全く興味がなかった私は、毎日運動をして、ただ漠然と体育教師になるのだと思っていましたが、両足の怪我をきっかけに自分の将来の事をよく考えるようになりました。その時、偶然出会った客室乗務員の方を見て、その温かな態度や雰囲気感動し、自分自身も客室乗務員を目指すことを心に決めました。

エアトラベル・ホテル専門学校に入学してからは、高校までの生活とは全く違う別の世界でした。身だしなみや立ち振舞いの授業、機内で使う英語や中国語、手話、航空業界で実際に使われる専門用語など、大学では習うことの出来ないような知識を学ぶことが出来ました。高校時代勉強に力を注いでいなかった私はかなり大変でしたが、同じ夢を持つ友人達と励まし合い、又先生方の心強いサポートや、家族の支えのおかげで頑張りが続けたことが出来ました。そして、自分自身の学力や知識もぐっと伸び、大きな自信に繋がっています。

2年目には、留学制度を利用して8ヶ月間のイギリス留学を経験し価値観や人生観も広がりました。単に語学力が伸びただけではなく、さまざまな国籍の友人達と出会えたことで物事の捉え方や

感じ方の違いを肌で感じ、その中でも誠実に接すれば思いやりの気持ちは言葉も国境をも越えて伝わることを実際に経験したのも大きな収穫のひとつです。

私は航空会社から内定をいただきましたので、これらの経験をお客様だけではなく一緒に働くスタッフにも思いやりをもって誠実に接し、良い信頼関係を築いていきたいと考えています。良いチームワークからよいサービスが生まれます。私は「あの子がいたら機内全体が明るくなる」と言ってもらえるような客室乗務員になりたいです。

後輩の皆さん、まずは自分の将来がどうなりたいのか具体的な夢をもってください。描くことの出来る夢は、実現できる夢です。頑張ってください。応援しています。



平成20年度 東京都産業教育振興会教育功労者表彰

平成20年度(財)産業教育振興中央会実施の「御下賜金記念産業教育功労者」および本会実施の「産業教育功労者」に対する表彰式が平成20年11月27日(火)に都庁第二本庁舎31階の特別会議室で行われました。今年度は、高等学校・高等専門学校15名、中学校11名の計26名の方が表彰されました。

式では、西澤会長から受賞者に表彰状と記念品が手渡され、永年の労苦に対するねぎらいのことばが述べられました。さらに、東京都教育委員会を代表して牛来峯聡教育庁指導部主任指導主事から、産業教育に対する多大な貢献に対し感謝のことばが述べられました。

その後、(財)産業教育振興中央会を代表して中山淑廣氏、東京都公立高等学校長協会を代表して本多吉則氏(東京都立芝商業高等学校長)、東京都中学校長会を代表して副会長の菊山直幸氏(調布市立神代中学校長)からご祝辞をいただいた。

各祝辞を受け、受賞者を代表して大田区立大森第六中学校 税所要章校長より謝辞が述べられました。



表彰式会場での授与

＜御下賜金記念産業教育功労表彰者＞(敬称略・順不同)

・都立青梅総合高等学校	専修実習助手	高野 晴夫
・都立中野工業高等学校	主幹教諭	橋本 利勝
・都立中野工業高等学校	教諭	尾花 英明
・都立蔵前工業高等学校	教諭	安藤 博
・都立墨田工業高等学校	校長	野上 明夫
・都立墨田工業高等学校	教諭	宮田 和穂
・都立町田高等学校	教諭	小川クミ子
・昭和第一学園高等学校	教頭	三宅慎太郎
・安田学園高等学校	教諭	館澤 博明
・安田学園高等学校	教諭	木村 良男
・安田学園高等学校	教諭	井上 誠
・都立産業技術高等専門学校	教授	邊見 信夫
・都立産業技術高等専門学校	教授	朝比奈奎一
・都立産業技術高等専門学校	教授	岡川 啓悟
・都立産業技術高等専門学校	教授	伊藤 周三

＜中学校技術・家庭科教育功労表彰者＞(敬称略・順不同)

・文京区立第六中学校	校長	高澤 秀敏
・文京区立文林中学校	校長	渡邊 尚美
・墨田区立墨田中学校	校長	松本 憲一
・墨田区立文花中学校	校長	渡部 昭
・大田区立大森第六中学校	校長	税所 要章
・大田区立石川台中学校	副校長	長崎 清行
・足立区立千寿桜堤中学校	校長	高橋 和夫
・葛飾区立本田中学校	教諭	山内 康
・江戸川区立二之江中学校	校長	山本 勉
・調布市立神代中学校	教諭	唐木 洋子
・東大和市立第三中学校	教諭	木村 正幸

平成20年度 作文コンクール表彰式

今年度の作文コンクール表彰式が12月22日(月)午後3時から都民ホールにおいて盛大に行われました。式には、喜びに湧く受賞者のほか指導教員や保護者の方も多数出席されました。

今年度は、中学校の部に37校(151名)、高等学校の部に25校(112名)、専修学校等の部に4校(19名)、合計66校(282名)の応募がありました。

【最優秀賞】

○中学校の部

大田区立東蒲中学校 3年 今井 藍

○高等学校の部

東京都立農産高等学校 3年 原田 千絵

○専修学校等の部

青山製図専門学校

2年 小林 祐斗



久保村副会長から賞状と記念品の授与

哀 悼

故 佐 藤 千 尋 殿

平成20年10月23日(木)、ドイツにてご逝去されました。享年90歳。

故、佐藤氏は、本会の理事として、昭和60年度から産業教育振興・発展にご尽力いただき、多大な功績を残されました。ここに、謹んで哀悼の意を表します。

平成20年度 産学懇談会

今年度の産学懇談会は、「企業、中学校及び他校種の方に総合学科教育及び産業技術教育を理解してもらう」ことを主目的に、理事の方を中心に総合学科高校と産業技術高専の見学と懇談を実施した。

第1回は、平成20年10月8日に都立つばさ総合高等学校で開催した。施設見学と授業見学をした後、荒川校長からつばさ総合高校の紹介と教育実践を、杉並総合高校の丹藤校長から都立総合学科高校の現状をお話していただいた。その後、総合学科教育への期待、産学連携についての意見交換を行った。

第2回は、11月21日に都立産業技術高等専門学校 荒川キャンパスで開催した。施設見学と専門学科の実習授業見学をした後、荒金校長から産業技術高等専門学校の紹介と教育実践の取組の現状についてお話をいただき、その後、意見交換を行った。



つばさ総合高校での産学懇親会

参加者からは、学校の教育施設の充実と教育実践の取組に関心をさせられたこと、教育実践を広くPRしていくこと、地域との連携を図っていくことなどについて意見が出された。

平成20年度 優良卒業生の表彰

学生・生徒の修学ならびに学習を奨励するために、学業及び人物ともに優れた卒業予定者、卒業後の進路に目的を持って取組んでいる卒業予定者を対象に表彰するものです。

今年度の受賞者数は会員校の中学校、高校、高専、短大、専修学校の生徒(学生)の中から、125名に(財)産業教育振興中央会の表彰状が、1,180名に東京都産業教育振興会の表彰状が各校の校長を通して授与されます。

東京都産業教育振興会 ホームページアドレス
<http://www.tosanshin.org/>

事務局より

- 平成20年度「会報」第135号をお届けいたします。
会報の編集、発行に際してご協力いただきました皆様に厚くお礼を申し上げます。
- 今年度も皆様のご支援とご協力をいただき、本会の事業が進められたことを感謝申し上げます。
本会の事業につきまして、ご意見・ご要望などございましたら事務局までお寄せ下さい。

発行 東京都産業教育振興会
〒163-8001 東京都新宿区西新宿2-8-1
東京都教育庁都立学校教育部
高等学校教育課内
電話 03-5320-6729
Fax 03-5388-1727
印刷 有明印刷株式会社

再生紙を使用しています